

8. 少子化についての考え方

8-1. 少子化問題の捉え方(Q33)

【男性】

少子化の急速な進展に関し、少子化問題をどのように捉えているか質問したところ、「解決すべき問題だと思う」と答えた人は、どのグループも5～6割を占めている。

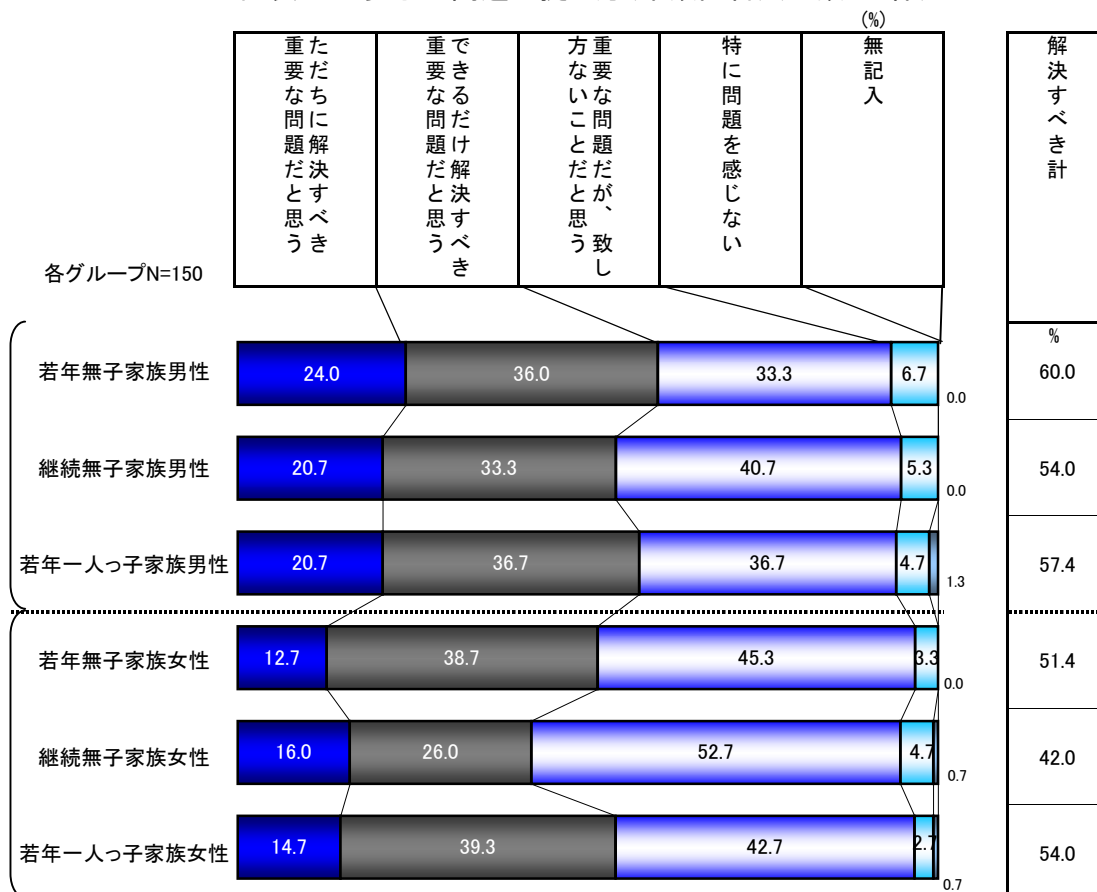
グループ別にさほど大きな差はみられないが、【継続無子家族】における「解決すべき問題だと思う」と答えた人の割合は54.0%で、各グループの中で最も低い。

【女性】

「解決すべき問題だと思う」と答えた人は、5割前後で、男性に比べるとやや低い。

男性同様、【継続無子家族】における「解決すべき問題だと思う」と答えた人の割合は他グループに比べて低く、42.0%にとどまっている。

図表8-1. 少子化問題の捉え方(単数回答)(基数:全体)



8-2. 少子化対策への意見(Q34)

【男性】

どのグループでも、まず第一に「経済的負担の軽減策の充実」、次いで「地域の子育て支援サービスの充実」を望んでいる。

以下、【若年無子家族】では「仕事と子育て両立の取り組み充実」、【継続無子家族】と【若年一人っ子家族】では「子育てに対する支援体制の整備」を望んでいる。

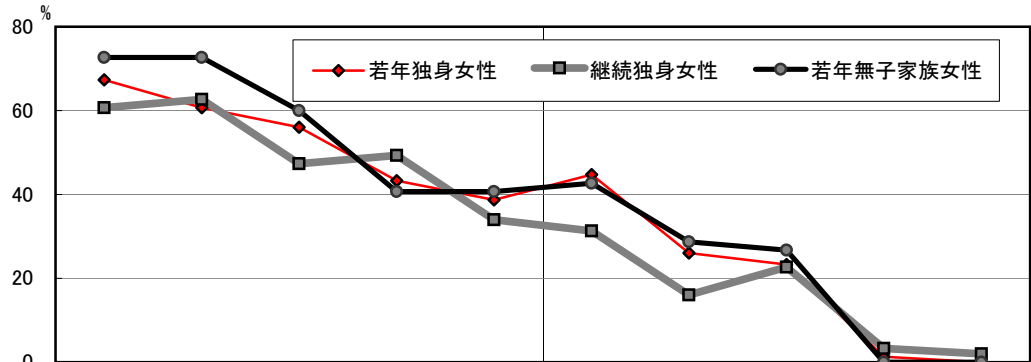
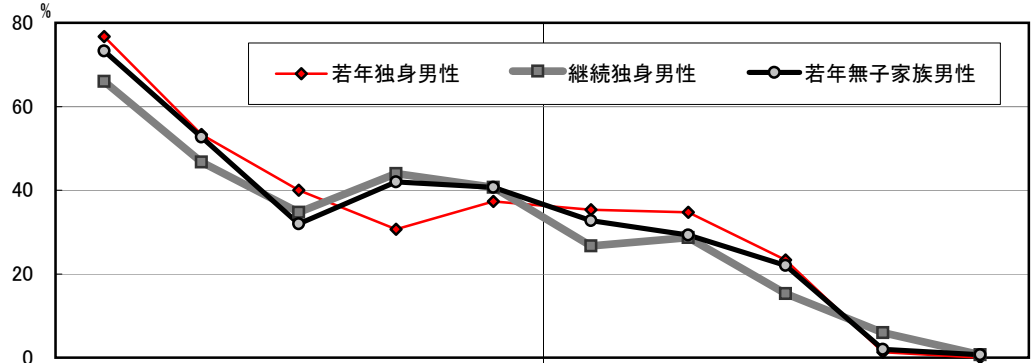
なお、「結婚や出産そのものを奨励すべき」という施策に関しては、【若年無子家族】では3割以上が肯定している。

【女性】

女性の場合も上位に挙げられた項目は男性と同様であるが、「経済的負担の軽減策の充実」と「地域の子育て支援サービスの充実」はほぼ同レベルの割合となっている。また、男性の比べると「男性の育児参加のための働き方見直し推進」の割合は高い。

一方、「結婚や出産そのものを奨励すべき」という施策に関しては、男性に比べて肯定者は少ないが、特に【継続無子家族】の割合は低く、2割未満(16.0%)にとどまっている。

図表8-2. 少子化対策への意見(複数回答)(基数:全体)



	経済的負担軽減のため 取り組みを充実すべき	地域のサービスを充実 すべき	仕事と子育て両立の 取り組みを充実すべき	子育てに対する 支援体制を整備する べき	安定した家庭のため 就労の支援を進める べき	男性の育児参加の 進め方を見直しを 進める	結婚や出産その ものを奨励すべき である	家庭を築くことの 大切さを伝えてい くべき	対策は行わなくて よい	無記入
各グループN=150										(%)
若年無子家族男性	76.7	53.3	40.0	30.7	37.3	35.3	34.7	23.3	1.3	0.0
継続無子家族男性	66.0	46.7	34.7	44.0	40.7	26.7	28.7	15.3	6.0	0.7
若年一人っ子家族男性	73.3	52.7	32.0	42.0	40.7	32.7	29.3	22.0	2.0	0.7
若年無子家族女性	67.3	60.7	56.0	43.3	38.7	44.7	26.0	23.3	1.3	0.0
継続無子家族女性	60.7	62.7	47.3	49.3	34.0	31.3	16.0	22.7	3.3	2.0
若年一人っ子家族女性	72.7	72.7	60.0	40.7	40.7	42.7	28.7	26.7	0.0	0.0